

椎茸櫟木の害菌圖説  
(第二報)

農學博士

西門義

一八九六

パチエラー・オブ・サイエンス

中山隆夫 三橋健

内 容

一、	ネ	ド	タ	ケ	<i>Polyporus gibbus</i> SOHREN.	NOH	1' 10" 10
二、	ダ	イ	ダ	イ	<i>P. ulicicola</i> P. HERN.	NOH	1' 10" 12
三、	ヤ	ケ	イ	ロ	<i>P. adustus</i> (WILD.) FR.	NOK	2' 10" 12
四、	ヌ	ル	ダ	タ	<i>P. Poela</i> (SOHW.) BERK. et OKE.	NOJ	1' 10"
五、	ア	ミ	ス	ギ	<i>P. areolaris</i> (BATSCH) FRITES	NOK	2' 12"
六、	ア	ヲ	ゾ	メ	<i>P. caesius</i> (SCHRAD.) FR.	NOK	2' 12"
七、	シ	ラ	ユ	キ	<i>P. chinensis</i> FR.	NOK	2' 12" 12
八、	イ	ロ	ヅ	キ	<i>P. profusilis</i> YASUDA	NOO	2' 12"
九、	ザ	イ	モ	ク	<i>Polydictyon vesiculosus</i> FRITES	NOH	2' 12"
一〇、	カ	ハ	ラ	ダ	<i>P. verticilar</i> (L.) FRITES	NOH	2' 10"
一一、	ハ	カ	ハ	ラ	<i>P. parvigenus</i> (FR.) SACOG.	NOH	1' 10" 10

一二、	アラゲカハラタケ	<i>Polystichus hirsutus</i> (Wulf.) Sacc.	三六	五七
一三、	ビイロタケ	<i>P. sanguineus</i> (L.) Fries	三六	五七・一〇
一四、	モンパタケ	<i>Phanerosclia</i> (Berk.) Lloyd	三六	五七・一〇
一五、	カイガラタケ	<i>Lenzites betulina</i> (Linn.) Fries	三六	五七・一〇
一六、	チャカイガラタケ	<i>L. tricolor</i> (Bull.) Fries	三六	五七
一七、	ニクウスバタケ	<i>Lyctes conisera</i> Berk.	三六	一七
一八、	ウスバタケ	<i>L. lacteus</i> Fries	三六	一七
一九、	コガネウスバタケ	<i>L. tubacinoides</i> Yasuda	三六	一七
二〇、	ワタグサレタケ	<i>Poria vaginata</i> (Fr.) Cooke	三六	一七
二一、	ウスキアナタケ	<i>P. micellaria</i> Jacc. Pers.	三六	一七
二二、	ワタグサレモドキ	<i>P. subacida</i> (Pk.) Sacc.	三六	一七
二三、	シワ	<i>Merulius tremulosus</i> (Schrad.) Fries	三六	一七
二四、	シワウロコタケ	<i>Phlebia strigosumata</i> (Schw.) Bress.	三六	一七
二五、	ニクシワウロコタケ	<i>P. aurantiaca</i> (Sow.) Schroet.	三六	一七
二六、	イボシワウロコタケ	<i>P. merismoides</i> Fries	三六	一七

一、ネンドタケ 第一圖版一—四、第五圖版三九、第六圖版四二、第一九圖版三圖

*Polypterus gilvus* Schwein. (Gilvus は淡黄色の意)

Fries, Elench. Fung. 1: 104, 1828; Overholzer, Ann. Mo. Bot. Gard. 1: 117, 1914; 安田, 植維 26: 329, 1912; 廣江, 藤用

菌學 p. 1038, 1942; 北島, 樹病學 p. 451, 1933; 今關, 日本隱花植物圖鑑 p. 441, pl. 211, f. 2-4, 1939.

種 名 *Boletus gilvus* SOW. Syn. Fung. Car. 96, 1822; *Boletus impletus* SOWERBY, tab. 195.

蓋は半圓形、革栓質を帯び、黄褐色、茶褐色、褐色を呈する。始めピロッド状の短密毛で被はれてゐるが、後、脱落して、極めて粗いザラ／＼した肌面を表はし、通常輪紋を有せないが、有する場合がある。縁邊は薄くやゝ鋭い。基部は垂生背着し、上下合着し、多數重生する。實質は黄褐色、堅い栓質、厚さ〇・一—一 cm、下面子實層は黄褐色から暗褐色となる。管孔は長さ〇・二—一 cm、管口は圓形、多角形、一 mm に付き七—八箇、剛毛體は多く、先端尖り、楔形、徳利形、黄橙褐色、厚膜、二—二五×六—七・五 μ。胞子は無色、類球形、四—五×三—四 μ。

採 集 地 備前御津郡加茂國有林 ナラ櫓木上 昭和一六年「一月

備中倉敷市大原農業研究所 ナラ、クヌギ櫓木上 昭和一六年九月、昭和一七年六月

加茂 ナラ櫓木上では一面に覆瓦狀に重生し、害菌中でも被害の大きいものであつた。大原農業研究所内櫓木上のものは、明瞭な輪紋を有する菌であつた。

## 二、ダ イ ダイ タ ケ 第一圖版八一〇、第六圖版四一、第一九圖版五一六圖

*Polyporus illicicola* P. HENN. [*Illicicola* fr. *Ilex* セキノキ屬を侵害するの意]

今關, 日本隱花植物圖鑑 p. 441, pl. 211, fig. 1, 1939; 安田, 植維. 27 : 339, 1913; 廣江, 應用菌學 p. 1039, 1942; 北島, 樹病學 p. 450, fig. 168, 1913.

蓋は半圓形で、棚狀、覆瓦狀に重生し、扁平或は貝殻狀、褐黃色を呈する。ピロッド狀の短毛を被むるが、後、脫落し、輪溝を有する。縁邊は薄く、波曲する。下面に不實帶を有し、子實層はピロッド狀の美しき黃色と銹黃色の光澤を有する。實質は黃色、後蓋と同色化するが、中央に黃色の層をのこす。管孔は長さ二—三mm、管口は微細、剛毛體は先端尖り四五—七五×五—七・五μ。胞子は今關氏に依ると類球形、無色、徑三—四μである。

採集地 備前御津郡加茂國有林 クヌギ、ナラ櫓木上 昭和一六年十一月三日

備中倉敷市大原農業研究所 ナラ櫓木上 昭和一六年八月一〇日

備中高梁町臥牛山 潤葉樹切株及大倒木上 昭和一六年一〇月一五日

加茂 クヌギ、ナラ櫓木上では背着展開し、一背着部の徑七一・二五cm位で、櫓木全面を覆つてゐた。蓋は薄かつた。高梁、臥牛山の古株上の本菌は重生覆瓦し、蓋の厚さは厚く、大倒木上に一面背着し偉觀を呈してゐた。

當研究所では、僅に蓋を形成する程度で本菌と思ふことが出来なかつた。又、櫓木底面に子實層のみ重生してゐた。

### 三、ヤケイロタケ 第二圖版二二—二六、第七圖版四三、第一九圖版二圖

*Polyporus adustus* (WILLD.) FR. [*Adustus* は黒ずんだ色の意]

Fries, Syst. Mycol. I: 363, 1821; 今關, 日本隱花植物圖鑑 p. 437, pl. 209, fig. 1—2, 1931; 安田, 植絳. 26: 119, 1912; 廣江, 應用菌學 1028, 1942; 北島, 樹病學及木材腐朽論 p. 454, 1933; Saccardo, Syll. Fung. 6: 125, 1888.

異名 *Bolus adustus* (WILLD.) Fries, Syst. Myc. I: 363, 1821; *Bislandera adusta* (WILLD.) Kuntz, Medd. Soc. Fenn. Fl. Fenn. 5: 38, 1879.

蓋は半圓形又は扇形、覆瓦狀に重生し、灰白色、淡材色(Warm Buff)、後、乾燥すれば褪色し、汚れた汚白色材色

を呈し、周邊は帯黒色、短密毛を被むり、不明瞭な輪紋を生ずる。又、輪紋を有せない。周邊は薄く、双狀、波曲し、淺裂する。下面には不實帯を有し、實質は白色、材白色、子實層は灰鼠色、灰黒褐色を呈し、灰色の變化が多く、後、乾燥して黒ずむ。管孔は長さ $0.5-2\text{mm}$ 、管口は微細、多角形。胞子は無色楕圓形、 $3.75-5.25\mu$ 。

#### 採集地

備中倉敷市大原農業研究所 クヌギ、シデ楢木上 昭和一六年五月一日、昭和一六年七月二〇日  
備前御津郡加茂國有林 クヌギ楢木上 昭和一六年十一月三日

子實體は梅雨期前後は強靱な肉質を帯び、新鮮であるが、後、乾燥收縮して下方に屈曲し、堅くなり、周邊から脆くこはれ易くなる。大原農業研究所では被害は大きい。

### 四、ヌルデタケ

第一圖版五、第七圖版四四圖

*Polygonus Pocula* (Sow.) Berk. et Cke. [Pocula は蓋の意、形状を示す]

Berkeley & Cooke, Proc. Am. Acad. Arts Sci. 4: 122, 1886; 今野 日本隱花植物圖鑑 p. 438, pl. 207, fig. 3, 1934.

異名 *Spharia pocula* Sow., Jour. Acad. Nat. Sci. Phil. 5: 7, 1825; *Eusthia pocula* (Sow.) Fries, Summ. Veg.

Scand. 2: 399, 1849.

子實體はサルノコシカケ科としては珍しく小形である。蓋は背面に莖を有し、基物から懸垂して生ずる。低い類圓錐形で、徑一—五mm、革質、乾燥すれば堅くなる。上面は灰白色、灰黄褐色、灰褐色を呈する。微細な短密毛を被むり、粉狀を呈し、輪紋はない。縁邊は、鈍縁で内下方に強く巻曲する。實質は、白色—材白色、裏面は、略々圓形を呈する。管孔は淡灰褐色、長さ1mm、管口は微細、圓形、灰黄褐色の粉末で覆はれ、1mmに付き、五—六箇である。莖は蓋

と同色、徑、二・一五×一・二・五mm、下方に強く屈曲する。胞子は無色類球形、徑四・四・五μ。

採集地 備中倉敷市大原農業研究所 ナラ、クヌギ、ノブ、櫓木上 昭和一五年七月一九日、昭和一六年二月

二日、昭和一七年二月二四日

殊に、櫓木の二年目のものに多く發生し、古き櫓木上には發生しない。被害は大きくない。

## 五、アミスギタケ

第四圖版三〇—三三、第一九圖版一圖

*Polyporus arcularius* (Batsch) Frings [Arcula は小箱の義]

Frings, Syst. Myc. 1: 342, 1824; Saccardo, Syll. Fung. 6: 67, 1888; 今關, 日本菌花植物圖鑑 p. 431, pl. 206, f. 3, 1939; 安田, 植菌誌. 26: 223, 1912; 廣田, 應用菌學 p. 1023, 1942; 三村, 日本菌類圖説 No. 30, 1929.

異名 *Botrys arcularius* Batsch, Elench. Fung. p. 97, 1783; *Polyporus arculariformis* Murr., Torrey 4: 151, 1904.

子實體は柔軟な革質、菌傘は圓形、中央は臍狀に凹み、徑一—三cm、上面は、淡材色で、淡、暗、褐色の鱗片を被むる。縁邊は薄くなり、纖毛を有する。實質は白色、薄く、管孔は長さ一—二mm、白色乃至材色を帯びる。管口は徑〇・七—二mmの大きさ、やや角ばつた橢圓形で放射狀に配列する。菌柄は圓柱狀で徑一・五—二・五×〇・二cm、白色、中實、表面は材褐色で鱗片を被る。胞子は無色、長橢圓形七・五—八・七五×二・五—三・七五μ。

採集地 備中倉敷市大原農業研究所 ナラ櫓木上 昭和一六年七月八日

本菌は梅雨期に際し僅かにナラ櫓木に發生した。被害は微小であつた。

## 六、アヲソメタケ

第八圖版四五、第一九圖版七圖

*Polyporus caesioides* (SOHRAD.) FR. [Caesioides は帶青灰色の意]

FRITS, Syst. Myc. 1: 360, 1821; SAOJARDO, Syll. Fung. 6: 113, 1888; 4圖, 日本陸花植物圖鑑 p. 435, pl. 208, f. 1, 2, 1939; 安田, 植維. 34: 265, 1920; 廣江, 應用菌草學 p. 1032, 1942.

異名 *Polyporus caesioides* SOHRAD, Spic. Fl. Germ. p. 167, 1794; *Tyromyces caesioides* (SOHRAD.) MURR, N. Am. Fl. 9: 34, 1907.

白色の軟柔な海綿質の肉質、生時本菌に觸れれば淡青色に變色する。特に、管孔部は著しい。乾燥すれば、栓質になり、脆くなる。蓋は半圓形横徑一—六cm、厚さ〇・五—二cm、上面は、短い軟毛で被はれ、輪紋はない。實質は、柔く、脆い、白色である。管孔は徑二—九mm、管口は微細、多角形を呈し、一mmに付き、三—四箇の大きさである。胞子は無色圓柱形、しばしば彎曲し、徑五—四×一・五—一μ。

採集地 備前御津郡加茂國有林 ノブ櫓木上 昭和一六年一一月三日

ノブ櫓木上に數個發生してゐた。古い廢木に近い櫓木上にあり、被害は大きくない。

## 七、シラユキタケ

第二圖版一七、第八圖版四六、第一九圖版九、一〇、一一圖

*Polyporus chioneus* FR. [Chioneus はオウシヤ菌の雪の意から]

FRITS, Syst. Myc. 1: 359, 1821; SAOJARDO, Syll. Fung. 6: 114, 1888.

子實體は白色生時水つぽく、粘ばりを有し、肉質、乾けば堅く脆くなる。殆ど無毛に近い平滑、傷つけても色づかない。縁邊は薄く双狀、下方に不實帯を有し幅〇・五—一mm、實質は白色、厚さ〇・五—二cm、不明瞭な輪層をつくる。下面子實體も白色、管孔は長さ一—三mm、管口は多角形不揃ひで、一mmに付き四—六箇。菌絲は無色、二・五—三・七五μ、交錯し、隔膜、鈎狀連結は、不明瞭で少なく、多く分枝する。又小枝を有する second spores を有する。擔子基は無色一・二・五—一六×二・五—四・五μ、胞子、無色、三・五—五×一・五—二・五μ。

#### 採集地

備中倉敷市大原農業研究所 ナラ櫓木上 昭和一六年五月二〇日

伯耆大山 ブナ枯木上 昭和一六年九月五日

本菌を人工的に生長させたら大さ一〇—一二×五—七cmに及び、やゝ重生した。ナラ櫓木に多く發生するが、自然狀態では條件が適せず、餘り大きくはならない。被害は大きくはない。アラゾメタケ *P. caesius* (Sohrad.) Fr. の類似菌であるが傷つけても、色づかないのが特徴である。其大體の性狀が *P. chioneus* Fr. 菌に類似して居るので之に宛てておいた、該菌の和名としては子實體の雪白な事と其學名 *chioneus* がギリシヤ語の「キオン」即ち雪の意とからシラユキタケと呼假稱した。

#### ハ、イ ロ ヅ キ タ ケ

第二圖版一一、第一九圖版八圖

*Polyporus profusilis* Yasuda

〔*Fissilis* は裂けたるの意 *Polyg.* *fissilis* 菌に似て異たる故 *Pro* (前の意) を附し *Profusilis* とした〕

安田篤, 植維 34: 67, 1920; 廣江, 應用菌學 p. 1048, 1941.



生時は白色の柔軟で肉質を帯び海綿様、乾燥すれば堅く、栓質となり、脆く、かなり収縮する。蓋は半圓形、覆瓦状に相密着して重生(採集標本、八箇密に重生)、又は單生する。横徑二・五—二・二 cm、縦徑二・九 cm、厚さ五—一七 mm、一部下疊背着する(約八 mm)。蓋の上面は白色、淡黄褐色 (Light Buff, Pinkish Buff) 粗毛で被はれてゐる。不明瞭な輪溝を有し又輪溝のない場合も多く。採集後、灰紫褐色 (Light Cinnamon Drab) — 黄褐色 (Clay Color) の斑點を生ずる。實質は白色、密な塞天質帶と棉毛狀帶との輪層をつくり、徑〇・二—一・二 mm、乾燥すれば縁邊と共に樹脂質となり、脆くなる。縁邊はやゝ厚く、鈍圓、最もよく着色し、褐色 (Chestnut-Brown) — 黄褐色 (Clay Color) となる。子實體面は蓋の上面よりも色づき、灰褐黄色 (Wood Brown) 灰紫褐色 (Brownish Drab) となる。管孔は白色—淡黄褐色、徑一—五 mm、乾燥すれば相膠著する。管口は微細、多角形、圓形、徑〇・一—〇・五 mm、一 mm に付き二—四箇、菌絲は無色、徑二・五—七・五  $\mu$  隔膜を有し鈎狀連結を有し、密に結晶を被むる。擔子基は無色二・五—二・五×五—六・二五  $\mu$ 、胞子は無色、楕圓形三・七五—五×二—三・二五  $\mu$ 。

#### 採集地

備前御津郡加茂國有林 ノブ槽木上 昭和一六年十一月一三日

備前御津郡加茂山林中 樹名不詳の大倒木上 昭和一六年十一月三日

本菌はアラゾメタケ *P. caesia* (Schrad.) Fr. の様に早くは乾燥しない。良香が高い。本菌の特徴は縁邊が厚く鈍圓であること及び、灰紫褐色、黄褐色に染まることである。被害は大きくない。類似菌多く、同定は困難で將來の研究を待つべき物であるが、安田氏 (一九二〇) 記載のイロツキタケ (*Polygones profusiss* Yasuda) に類する處があるから本報告では假りに其名稱を襲用する。

# 九、ザイモクタケ

第五圖版四〇、第一九圖版四圖

*Polystichus ravidus* Fries —〔*Ravidus* は灰色を帯ぶるの意〕

Fries, Epicr. p. 476, 1838; Saouardo, Syll. Fung. 6: 238, 1888.

異名 *Polyporus ravidus* Fries, 安田, 植絳 30: 26, 1916; 廣田, 應用菌學 p. 1049, 1942; *Boletus heterothicus* Sowerb.

Eng. Fung. t. 367.

菌傘は無柄にして、樹皮面に重生。相癒着して、横に長く亘る。薄くして革質を帯び長徑三—一〇cm 短徑一・五—二・五cm、表面は材色を呈し、粗糙にして極めて短き密毛を帯び不明の輪層を具ふ。實質は材色を呈す。裏面は材色にして菌管の長さは一・五—二・五mm、管孔は多角形をなし、大小不規則なり。基子は楕圓形をなし無色にして平滑、長徑六μ 短徑四・五μあり。

以上安田篤氏の記載である、他に、囊狀體を有する、無色、徑一六—二五×五—六・二五μで先端は結晶を冠り、シハイタケ、*P. abietinus* (Dicks.) Fr. ハカハラタケ *P. parvamenus* Fr. の囊狀體に似る。

採集地 備前御津郡加茂國有林 ナラ櫓木上 昭和一六年十一月三日

備中倉敷市大原農業研究所 クリ櫓木上 昭和一五年七月二日 昭和一七年六月二四日

加茂、ナラ大櫓木上では、徑五〇×一五cm 以上、櫓木裏面に背着してゐた。反轉して白色の蓋をつくり、徑二・五—四・五×一—二・五cm 厚さ〇・一—〇・二五cm、極めて浅い輪層を有してゐた。當大原農業研究所クリ大櫓木上に發生し、三年に渡つてゐる。櫓木全面に背着して、小さい蓋を無數につくり、腐朽力は弱いが永續性があり被害は大きい。

# イロカハラタケ

第三圖版一八一—一九、第一〇圖版四九圖

## *Polystictus versicolor* (L.) Fr. [Versicolor 着色の様々なる意]

FRILES, Syst. Mycol. 1: 368, 1821; SACCARDO, Syll. Fung. 6: 253, 1888; 安田, 植維 22: 373, 1908; 川村, 日本菌類圖說 No. 217, 239, 1929; 北島, 樹病學 p. 455, 1933; 今關, 日本隱花植物圖鑑 p. 467, pl. 224, f. 3, 1939.

名 *Polyporus versicolor* (L.) FRILES, Syst. Myc. 1: 369, 1821; SHOPE, Ann. Mo. Bot. Gard. 18: 323, 1931;

OVERHOLTA, Ibid. 1: 91, 1914; *Bolpus versicolor* L. Sp. Pl. p. 1176, 1753; *Polyporus hirsutulus* SOWG., Trans. Am. Phil.

Soc. II, 4: 156, 1832; *Polystictus caeruleus* FRILES, Nov. Synb. p. 93, 1851; *Coridus versicolor* (L.) QUÉL., Each. Fung. p.

175, 1886; *Coridus hirsutulus* (SOWG.) MURR., Bull. Torr. Bot. Club, 32: 633, 1906.

蓋は薄く、半圓形、扇狀を呈し、革質、覆瓦狀に多數重生し、横徑一—八cm、厚さ一—五mm、上面は短密毛を被る。部分的に脱落して多數の輪紋を明瞭に現す、輪紋は赤褐色、黄褐色、灰黑色を呈し、密毛帯は灰白色、灰青色、灰黄褐色、灰黑色、灰綠色等、多色で美しい。縁邊は薄く、刃狀、やや波曲し、下方に屈曲する。

上面は最初白色を呈する。下面は狭い不實帯を有する。實質は白色、管孔は白色、灰白色、後に黄褐色、管孔は、微細圓形乃至多角形、一mmに付き三—五箇である。管口は、後にやゝ齒牙狀を呈す、孢子無色長い腸詰形五—八×一—五—二—五μ。

クロカハラタケ *P. versicolor* var. *nigricans* LASCH [Nigricans は黒色となるの意]

蓋の上面は最初短密毛で被られ、灰黄褐色、灰白色、灰黑色を呈す。後、輪紋帯は短密毛脱落して、平滑となり、黒色、黒紫色、黒褐色等を呈す。密毛帯も濃色となり、紫黑色、灰黑色、灰綠色等を増す。成長後はカハラタケ (*P.*

*versicolor* (L.) Fr. に比較して、全體黒すみ、輪紋は、黒色を呈する。

**アヰカハラタケ** *P. versicolor* (L.) Fries f. *azureus* Fries 安田、植維、26: 234, 1912; 廣江、應用菌學 p. 1076, 1941.  
カハラタケとクロカハラタケの中間で、灰青色がかつた菌に對してこの名前があつた。以上三菌は、之を互に類別するは困難で、單にカハラタケと稱するのが適當の様である。

**採集地** 備前倉敷市大原農業研究所 クヌギ、ナラ、櫓木上 昭和一五年七月一二日、昭和一七年二月二四日

備前御津郡加茂國有林 クヌギ、ナラ、其他櫓木上

大體に於て、中國地方の櫓木上には、アヰカハラタケ型、クロカハラタケ型、カハラタケ型の順に發生する、自然分布狀態も同様である。ナラ、クヌギ、クリ、カシ等あらゆる種類の櫓木を侵害する、櫓木全面を覆瓦狀に重生し、被害は甚大である。梅雨期前後、猛烈に繁殖する。

## 一、ハカハラタケ

第一圖版六七、第二〇圖版五〇、第二〇圖版一二圖

*Polystictus pergamenus* (pergamenus) Fries [Pergamenus は牛皮紙の意]

Fries, Epicr. p. 480, 1838; SAOABARO, Syll. Fung. 6: 242, 1888; 安田、植維、26: 20, 1912; 今關、日本櫓木植物圖鑑 p. 405, pl. 223 f. 4, 1939; 廣江、應用菌學 p. 1072, 1942.

**異名** *Polyporus pergamenus* Fries, Epicr. Myc. p. 480, 1838; OVERHOLZ, Ann. Mo. Bot. Gard. 1: 92, 1914; SHOPE, Ibid. 18: 329, 1931; *Polyporus prolificus* Fries, Epicr. Myc. p. 443, 1838; *Polyporus laceratus* Berk., Ann. & Mag. Nat. Hist. 3: 392, 1839; *Polyporus Fideleium* MONT. Pl. Cell. Cuba, p. 388, pl. 15 f. 2, 1842; *Polyporus Menzianianus* MONT.

Ann. Sci. Nat. Bot. II. 20: 1862, 1843; *Polyporus subflavus* L.f.v., Ann. Sci. Nat. Bot. III. 5: 300, 1846; *Polyporus Xalapensis* Berk. et Curt. Journ. Bot. & Kew Misc. 1: 103, 1849; *Polyporus Sartwellii* Berk. et Curt. Grevillea 1: 51, 1872; *Polyporus uicicola* Berk. et Curt. Grevillea 1: 52, 1872; *Polyporus pseudopargamensis* Thum. Mye. Univ. no. 1102, 1878; *Coridus pargamensis* (Fr.) Pat. Ess. Tax. Hymen. p. 34, 1900; *Coridus prolixus* (Fr.) Marr. N. Am. Fl. 9: 27, 1907.

傘は薄く革質、無柄、時として擴大し縁邊反轉し、介殼狀、基部屢細く柄狀部にて固着する。二—三×一五—二五×〇.一—〇.二cm、表面は輪紋狀、毛狀或は絨—綿狀、白、Vinous Buff, Avellaneus 又は Light Drab 周縁は薄く鋭、全縁波狀或は唇狀。實質は極薄、1mm 以下白乃至 Buckhorn Brown 實質の菌絲は顯微鏡下では無色—黃色、分枝し、徑四—六μ管は長さ〇.五—三mm、乾けば脆く、管孔は着色種々 (Livid Purple, Vinous Fawn 乃至 Warm Blackish-Brown) 若き物は帶紫、古き物は帶褐、1mm に平均二—三孔、管壁は直ぐ割裂し厚さ八〇—一五〇μ、菌組織は鏡下では無色乃至帶黃。子實層は厚さ二〇μ無色。擔子柄は幅五—七μ。胞子は平滑無色、長橢圓形乃至腸詰形七—九×二—三μ。囊狀體は多數、目立たぬ、無色、先端に結晶を被むるか或は平滑、子實層と同高或は一五μ位突出する。胞子、囊狀體及擔子柄は *P. abietinus* と同様。

*Polyporus abietinus*, *P. pargamensis* 及び *P. subchartaceus* は極く近似で屢區別が困難である。幼時は三菌共子實層は紫色で管壁は連續、老成すると子實層は黃褐色で管壁は裂ける。子實層の顯微鏡的性質は同様、*P. subchartaceus* は三菌中最大最厚最強であるから此點で區別がある。*P. abietinus* は普通針葉樹に發生し、*P. pargamensis* は普通落葉樹に生ずる。其生長で比較するのもよく、*P. abietinus* は長さ三cm 以上は稀む、*P. pargamensis* は大形で七cm に達する。尙後者は普通扇狀と莖部に漸尖して柄となるが前者は此性質がない。若し扇狀になる事があつても着點は廣く柄狀ではな

5.

採集地 備前御津郡加茂國有林 ナラ櫟木上 昭和十六年一月二日

伯耆大山 ブナ枯枝上 昭和一六年九月四日

加茂ではナラ櫟木に發生し、被害は大きかつた。材の白腐(White rot)を起す。

## 一三、アラゲカハラタケ

第四圖版三七—三八、第九圖版四七圖

*Polystictus hirsutus* (Wulf.) Fries [Hirsutus は毛茸の意]

Fries, Syst. Myc. 1, 367, 1821; Saccardo, Syll. Fung. 6: 257, 1888; 今國, 日本櫟花植物圖誌 p. 465, pl. 223, f. 1, 1939; 安田, 植維. 29: 35, 1915; 廣江, 應用菌學 p. 1068, 1942; 北島, 樹病學 p. 46, f. 176, 1938.

異名 *Polyporus hirsutus* (Wulf.) Fries, Syst. Myc. 1: 367, 1821; Shope, Ann. Mo. Bot. Gard. 18: 324, 1931.

*Boletus hirsutus* Wulfen, in Jacq. Coll. 2: 149, 1738; *Boletus nigrimarginatus* Sowerb., Schr. Nat. Ges. Leipzig 1: 98, 1822;

*Polystictus hirsutus* Fries, Nov. Symb. p. 88, 1851; *Coriolus nigrimarginatus* (Sowerb.) Murr. Bull. Torr. Bot. Club.

32: 649, 1906.

蓋は、革質、半圓形、扇狀、重生、又は單生する。横徑二—八cm、厚さ〇・二—〇・八cm、上面は白色、灰白色、淡黄褐色、灰褐色を呈し、長粗毛を密生する、又、短密毛で覆はれる。明瞭な輪溝を有する。縁邊は、平坦、又は少し波曲する、厚く、又は薄く、やや鈍縁である。

實質は強韌な革質乃至柔軟性の栓質、白色、材白色である。管孔は白色、淡灰黑色、灰褐色長さ徑一—四mm、管口は

圓形乃至多角形 1mm に付き三—五箇、胞子は無色、六—七×二・五—三μ。

### 採集地

備前御津郡加茂國有林 ナラ、ノブ槽木上 昭和一六年一月三日

備中倉敷市大原農業研究所 クヌギ槽木上 昭和一七年二月一〇日

備前兒島郡琴浦 櫻上 昭和一六年四月一日

其他、伯耆大山 備中高梁臥牛山 備中都窪郡帶江村等

採集した本菌は、大抵は白色の菌であつたが、兒島琴浦の菌は表面が灰青色を呈してゐた。加茂の槽木上では重生し、槽木全面に覆互してゐた。被害は大きい。當研究所では僅に發生した。

## 一三、ヒイロタケ

第三圖版二〇—二一、第一〇圖版五〇、第二〇圖版一三圖

### *Polystichus sanguineus* (L.) Fries [Sanguineus (血の色の菌)]

Fries, Reliq. Afzel., tab. 2 fig. 4 (Polyporus); 今譯、日本隱花植物圖鑑 p. 463, 1939; 安田, 植維. 22: 373, 1908; 廣田, 應用菌學 p. 1074, 1942; 北島, 樹病學及木材腐朽論 p. 456, 1933; 川村, 日本菌類圖說 No. 93, 1923.

種名 *Polyporus sanguineus* L. ex Fries, Syst. Myc. L. 1: 371, 1821; Overholzer, Ann. Mo. Bot. Gard. 1: 115, 1914.

蓋は半圓形、扇狀を呈し、薄い革質、重生又は一箇だけ生ずる。横徑三—一〇cm、厚さ一—五mm、平滑又は細い綿毛で覆れ輪紋を有し、或は有せない場合もある。表面は朱橙色、赤褐色を呈し (Flame Scarlet 乃至 Madder Brown) 又、褪色して灰白色となる場合もある。

實質、朱橙色乃至中間朱橙色 (Grenadine Red, 乃至 Light Salmon Orange) 柔く、綿毛狀の纖維質を呈し、徑 1mm



下鮮明な輪層を有す。裏面は表面よりも濃色の美しい緋色(Brazil Red, Scarlet)を呈する。管孔は短く、徑 $0.3-1.0$  mm、管口は圓形、多角形、微細 $1$  mmに付き四—六箇。胞子は長楕圓形、少し彎曲、徑 $7-8 \times 2.5-3.4 \mu$ 。

採集地 備中倉敷市大原農業研究所 ナラ、櫓木上 昭和一六年七月二〇日、昭和一七年七月一日

本菌が一つ、二つ、櫓木上に子實體を發生し出すと、椎茸はまづ發生しないと云つてよい。侵入した旺盛な本菌の菌絲が、櫓木内全面に蔓延し、椎茸菌絲は取れてしまふ。その被害は大きい。

北島君三氏は「本菌の菌絲は熱に對する抵抗力が極めて強大で攝氏四〇度に於ても旺盛に發育することは、他の多くの木材腐朽菌には認められない」「本菌による腐朽材は柔軟な纖維質と化す」と記載してゐる。

## 一四、モンパタケ

第四圖版三四—三六、第一三圖版五五—五八、第一四圖版五七—五八、第二〇圖版一五—二〇圖

*Trametes villata* (Berk.) Lloyd [Vittata は誤に條のある處]

今圖、日本隱花植物圖鑑 p. 475, pl. 228, 5, 6, 1939; 安田, 植藝. 27: 306, 1913; 廣田, 應用菌學 1087, 1942.

異名 *Trametes villata* Lev. Sacc. 6: 341, 1888; *Polyeticus orientalis* Yasuda, 安田, 植藝. 32: 135, 1918;

廣田, 應用菌學 p. 1071, 1942.

「蓋は通常半圓形、扁平で、横徑 $3-6.5$  cm、厚さ通常 $0.5-1$  cmあり。上面は淡い鼠色又は淡い鼠茶色を呈し、常に灰色の色彩をおびる。微細なピロウド毛を密布し、觸感柔かく、殆ど平坦、輪紋を缺く。實質は白色乃至材白色、栓質で強靱である。管孔は長さ $1-5$  mmあり、實質と同色を呈し、孔口は稍小さく、圓形を呈する。口縁は平坦で黄白色を呈するが古いものは材色をおびる。胞子は長形、一端尖り、少しく彎曲、無色、長さ $6.8-8.2 \times 2.5-2.7$ 」



μ」以上今關六也氏の記載。

クジラタケ *Polystictus orientalis* YASUDA

「菌傘は無柄にして半圓形をなし、縁邊に數個の切込を具へ、薄くして革質を帶ぶ。大形にして横徑六一・九・五cm、縦徑五・五—一二cm、厚さ五—一三mmあり。表面は灰白色を呈し、附元に近き約半部は、時に淺褐色を帶ぶ。極めて微細なる、天鵝絨様の密毛を以て被はれ、疎くして淺き輪層と、放射狀の皺襞とを具へ、内部の實質は白色を呈す。裏面は白くして、管孔は多角形を爲し、微小ならず。直徑〇・三—〇・五mmあり。子囊層は剛毛體を缺く。基子は圓柱形を爲し無色にして平滑なり。長徑六—七ミクロン短徑一ミクロンあり。」と安田氏は記載されて居る。

採集地 備中倉敷市大原農業研究所 クヌギ、ナラ、櫟木上 昭和一五年五月三〇日、昭和一六年六月二二日、

昭和一七年五月一〇日、昭和一七年六月二三日

備中高梁町臥牛山 クヌギ大倒木上 昭和一六年一〇月一五日

本菌は當大原農業研究所内で、最初クヌギ大櫟木上に發生した。年を経るにしたがつて、多くのクヌギ、ナラ櫟木を侵害した。三、四、五年目の古櫟木を好んで侵害した。諸害菌中でも最も被害の大きいものであつた。椎茸は全く發生しない。クヌギ大櫟木上では養分が好いので、その形態は多樣相をしめた。兩菌の組織は同じで、實質中の菌絲は無色、幅五μ稀に七・五μで眞直で隔膜のないものと、幅二・五μで分枝の多いものとである。子實層の菌絲は無色、幅三—四・五μで、隔膜のないものでなり、子實層からは幅一・二五—二・〇μの菌絲が夥しく突出する。擔子基は無色二

〇一三〇×五μ、胞子は兩菌とも無色、七一八×二・五一三μ。最初徑三×一・三cm位の頃は蓋は褐黃色(Prout's Brown, 乃至 Deep Olive-Buff)を呈するが、成長後は色は薄くなり灰色(Vinaceous-Buff)となる。又、梅雨期には白灰色(Light Buff, Tilleul-Buff)の子實體で輪層を有するクヂラタケ型を生ずる。

本菌はクヌギ、ナラ櫓木上で、五月頃までは、僅に發生する。幅厚く、輪層を有せず、モンバタケ *Tremetes vittata* (Berk.) Lloyd にあつた。梅雨期に至つて同櫓木上へ無數に重生し、基部やゝ垂生し輪溝を有する、モンバタケ *Tremetes vittata* とクヂラタケ *Polytichus orientalis* Yasuda の中間の形が生じた。故に昭和一七年五月、實驗的に本菌の發生し始めた櫓木を五本、溫室に入れ、シャワで人工的に約一ヶ月間雨を降らして見た。その結果モンバタケ型とクヂラタケ型が一つの櫓木から生じたもの櫓木三本、クヂラタケ型のみを生じたもの櫓木二本の結果であつた。後より生じた子實體ほど、厚が薄くなる傾向を見ることを得た。

又、このクヂラタケ型のみを生じた二本の櫓木を七月中(降雨少なかつた)外部へ放置して置いたらモンバタケ型を生じてゐた。水分等の條件が悪く、ゆつくりと成長して出來た少數の子實體がモンバタケで、水分等の條件が良く、急激に生長して出來あがつた多數の子實體が、クヂラタケの様である。

又、和名モンバタケの名が全然異なる菌 *Parilla atrolomentosa* (Barrois) Fr. ニバタケ(安田、植雜、吳・1931年)に對しても使用せられてゐるので混同せない様注意せねばならぬ。

## 一五、カイガラタケ

第四圖版二九、第九圖版四八、第二一圖版五二、第二〇圖版一四圖

### *Lenzites betulina* (Linn.) Fries [Betulina はフナノキにつくの菌]

Fries, Epicr. Syst. Myc. 405, 1838; Saccardo, Syll. Fung. 5: 638, 1887; 今國, 日本植物圖鑑 p. 479, pl. 230, fig. 1, 2, 1939; 北畠, 樹菌學及木材腐蝕論 p. 464, fig. 180, 1933; 川村, 日本菌類圖說 No. 154: 19, 1929.

類 々 *Agaricus betulinus* Linn. Sp. Plant. 1176, 1753; *Dacrydia betulina* Fr. Syst. Myc. 1: 335, 1821.

蓋は半圓形、革質、多數覆瓦狀に重生し、貝殻狀を呈する。横徑二—一〇cm、厚さ〇・五—一・三cm、上面は灰白色、灰褐色を呈し、多數の輪溝を有し、短密毛で覆はれる。實質は徑一—二mm、白色、材白色を呈する。下面には、放射狀の褶を有す、幅〇・三—一cm、材白色、灰褐色を呈す、最初は白色で、鈍緑で、やゝ幅廣く、又、少しく又狀に分歧し、やゝ迷路狀を呈するが、殆ど、整然と並列してゐる。生長後は縁邊は又狀に薄くなり、乾燥すれば波狀に屈曲する。薄齒狀に深く、淺く、多裂する。胞子は無色、腸詰形、大さ、五—七・五×二・五—三・七 $\mu$ 。

### 採 集 地

備中倉敷市大原農業研究所 ナラ、クヌギ櫓木上 昭和十五年五月二八日、昭和十六年六月二〇日  
備前御津郡加茂國有林 ナラ、クヌギ、シデ、櫓木上 昭和十六年一月三日

本菌はナラ櫓木を主として、クヌギ櫓木を侵害し、諸害菌中でも被害の甚大なものであつた。當大原農業研究所内では、梅雨期前後、盛に發生する。最大形にまで生長するものもあるが、多くは、横徑四—五cm位まで了り、表面は黄褐色、褐灰色を呈し、裏面も褶の幅の廣い間に、生長が止り、本菌と思はれぬ場合も多かつた。加茂では、最大形まで生長して櫓木一面に重生してゐた。

# 一六、チャカイガラタケ

第三圖版二二—二三、第一二圖版五四圖

*Lenzites tricolor* (Bull.) Fries [Tricolor は三色の意]

Fries, Eplax. Myc. p. 406, 1838; Saccardo, Syll. Fung. 5: 639, 1887; 今國, 日本經濟植物圖鑑 p. 479, pl. 230, f. 5, 6, 1939; 安田, 植維. 25: 442, 1911; 廣田, 應用菌學 p. 1096, 1942.

蓋は半圓形、扇狀、薄くして扁平、革栓質、横徑二—七 cm 厚さ〇.三—〇.八 cm、ピロイド狀、茶褐色の短密毛で覆はれてゐるが、後に所々脱落して地肌をあらはし、同心的輪紋を生ずるに到る。その無毛、輪紋帯は暗紫褐色、紫色、赤褐色、黒色で、脱落せぬ部分の焦茶色と美しい對照をつくり出す。放射狀の細皺を有する。縁邊は薄く、鋭く、細く、鋸齒狀を呈する。又内側に少し屈曲し、鋸齒狀の少ない場合もある。實質は灰白色—淡灰褐色幅一—二 mm、褶は灰白色、灰褐色、灰褐色、灰褐色を呈し、褶の幅は一—六 mm、褶の間隔は〇.八—〇.二 mm、褶は薄く、放射狀に並列し、少しく、又狀に分岐する。又、少しく波曲して來る場合もある。褶の縁邊は鋭く、鋸齒狀に浅く裂ける。又その鋸齒狀が高く不規則に突出して來る場合もある。

## 採集地

備前御津郡加茂國有林 ノブ櫓木上 昭和一六年一月三日

備中高梁臥牛山 櫻大倒木上 昭和一六年一〇月一七日

加茂では、ノブ櫓木に一面に、覆瓦狀に重生してゐた。被害は大きい。臥牛山でも、櫻の大倒木上に一面に重生して、偉觀を呈してゐた。

# 一七、ニクウスバタケ

第一一圖版五一、第二一圖版三九圖

## *Uromyces consors* Berk.

BERKELEY, Cal. n. 267; SAOCCARDO, Syll. Fung. 6: 486, 1888; 今圖, 日本隱花植物圖鑑 p. 469, pl. 225, f. 1, 1939.

「蓋は薄くして略々半圓形、多數覆瓦狀をなして密に重生し、基部は垂生して上下相連なる。横徑一—三 cm、上面は鮮茶褐色、赤褐色又は材色等を呈し、無毛平滑、細かい放射綿狀と不明瞭な輪紋をあらはす。縁邊は薄くして双狀、乾けば内下方に屈曲する。實質は極めて薄く、革質強靱、淡い材白色。下面には長さ一—二・五 mm の薄齒狀の突起を密生し、淡い肉黄色乃至淡材白色を呈する。胞子は無色、楕圓形、四・五—六×二—三 μ」と今關六也氏は記載されて居る。

採集地 備中倉敷市大原農業研究所 ナラ櫨木上 昭和一六年七月二〇日及柳上 昭和一六年九月一〇日

備前御津郡加茂國有林 ノブ、ナラ櫨木上 昭和一六年十一月三日

備中上房郡廣瀬 潤葉樹枯株上 昭和一五年十一月三日

當大原農業研究所、ナラ櫨木にはやゝ不完全な本菌が生じた、廣く背着、覆瓦狀に重生した。加茂國有林のノブ櫨木は本菌が櫨木全面に覆瓦狀に重生してゐた。又、侵害された櫨木數も多數で被害は甚大であつた。然し一つ、一つの子實體はやゝ變形に近く、型より遠いものが多い。

一八、ウスバタケ 第二一圖版五三、第二二圖版三八圖

## *Uromyces laevis* Frises [Lacteus は乳白の意]

Frises, Syst. Myc. 1: 412, 1921; SAOCCARDO, Syll. Fung. 6: 484, 1888; 今圖, 日本隱花植物圖鑑 p. 469, pl. 225, f. 2, 1939;

安田, 植維, 27: 167, 1913; 廣江, 應用菌學, p. 1005, 1942.

廣く背着して、上縁反轉、蓋をつくる。蓋は半圓形、薄く、貝殻狀に重生する。白色、灰白色、短密毛で被はれ、不明瞭な輪紋を有する。後、蓋は黒ずむでくる。縁邊は薄く、双狀、下方へ捲曲する。殆ど不實帯を有せない。實質は白色、薄く、管孔は白色から淡材色（Light Ochraceous-Buff）となる。大部分齒牙狀となり、先端は薄く、鋭く、分裂する。徑一—二mm、管口は多角形、一mmに付き一・五—二箇。菌絲は無色、徑二・五—五μ、隔膜を有し、分枝し、鈎狀連結をする。囊狀體は幅五・五—七・五μ、やゝ廣膜、棍棒形、紡錘形、突出する。全體に結晶を被り、又、被らぬ場合もある。少數は頂上にのみ、結晶を被むる。胞子、無色、橢圓形、四—五×二—三μ。

採集地 備前兒島郡藤戸町 ナラ櫓木上 昭和一六年一二月

備中倉敷市大原農業研究所 櫻樹上 昭和一五年五月一日、昭和一七年六月二四日

藤戸、ナラ櫓木上に廣く背着してゐた採集一斷片は徑一五×七cm、蓋は幅狭く、延長してゐた。子實體の下方、側面内部に、〇・二mm程の白い綿毛狀の不實帯を有してゐた。

當大原農業研究所では、櫓木に發生したことはない。所内の櫻樹に夥しく發生して、枝の内部までコルク質様に腐朽させ、脆く、枝は折れて了ふ。櫻樹上では、本菌は早く、萎れて来る。

## 一九、コガネウスバタケ

*Trypa tabacinoides* Yasuda [Tabacinoides は標草色の意から]

安田, 植維, 34: 96, 1920; 廣江, 應用菌學, p. 1007, 1942; 今岡, 日本露花植物圖鑑, p. 469, pl. 225, f. 3, 1939.

「子實體は大きく基物面に背着し、縁部反轉して蓋を形成するか、或は半圓形の蓋を重生する。蓋は極めて薄く、横徑は通常〇・五—一・五cmあり、上面は黄褐色の絹絲狀の光澤ある短毛を密生し、多數の狭い輪紋を有する。實質は柔軟な革質で黄褐色。下面の薄齒狀突起は最長一・五mmあるも多くは〇・五mmに達せず、寧ろ薄い皺狀の褶をなし、長溝狀乃至迷路狀の網目をつくり、黄灰色乃至灰褐色を呈する。子實體には多數の剛毛體を具へる。剛毛體は楔形、黄褐色の厚膜を有し、大さ六〇—一〇〇×一〇—一八μ。胞子は無色、圓柱狀、五—六×一μ」(今關六也氏記載)。

採集地 備前御津郡加茂國有林 ナラ櫓木上 昭和一六年十一月三日

伯耆大山 瀾葉樹地上枯枝 昭和一六年九月五日

加茂國有林の櫓木で不完全な發育の悪い本菌が、少し背着してゐたのを見た。被害程度は不判明。伯耆大山では、地上枯枝に立派な本菌を見た。

## 二〇、ワタグサレタケ

第一五圖版五九—六〇、第二〇圖版二一—二三圖

*Poria vaporaria* (Fr.) Cooke [Vaporaria は蒸氣管の意]

COOKE, Grevillea 14: 11, 1886; SAOCCARDO, Sylh. Fung. 6: 311, 1886; SHORE, Ann. Mo. Bot. Gard. 18: 397, 1931; 今關, 日本隱花植物圖鑑 p. 423, pl. 202, f. 4, 1939.

異名 *Polygopus Vaporaria* FRUS, Ohs. Myc. 2: 260, 1818; Syst. Mycol. 1: 382, 1821; *Botulus incertus* PERS. Myc. Eur. 2: 106, 1825; *Poria incerta* (PERS.) Murr. Mycologia 12: 78, 1920.

子實體は多年生で、背着に始終する。生時は柔軟な肉草質であるが乾燥すると固い革質となる。白色、淡材色（Chalky Buff, Cream Buff）である。縁邊の不實帯は白色、綿毛狀、幅〇・五—三mm、管孔は長さ一—三mm、重力の方向に排列する。管口は多角形、圓形、一mmに付き二—三個。菌絲は無色、徑、二—三・五μ、隔膜を有し、結晶を被むり鈎狀連結がある。子實體から高く突出する。子實體層下組織及菌絲層中に導管樣菌絲？が存在する。無色で長さ七・五—一五μ。擔子基は無色、圓筒形、一〇—一八×三—五μ。胞子は無色卵球形五・〇—六・三×三・三—四・一μ。

採集地 備中倉敷市大原農業研究所 ナラ、クヌギ櫓木上 昭和一五年六月一〇日、昭和一七年六月二五日

備前加茂國有林 ナラ櫓木上 昭和一六年一月三日

伯耆大山 ブナ枯枝上 昭和一六年九月四日

備中高梁臥牛山 潤葉樹地上枯枝 昭和一六年一〇月

本菌は外觀が、ワタクサシ菌 *Poria vaginata* (Fr.) Cooke とは多少異なる様であるが、他菌に比して最もよく似てゐるので暫く此名を使用する。廣く、多く、分布してゐる。櫓木を最も甚大に侵害する菌である。廢木となる櫓木は實に多い。櫓木の全面を被ひ、大さ五〇cm以上に及ぶ。本菌の特徴は多年生で、二—三年すると諸所が5mm程、不規則に盛り上がり、不實帯が諸所に生じ、管孔は更新し、白色、又は黃褐色（Raw Sienna）を帯び、不揃となつて来る。斯様な菌の子實體からは菌絲が盛に突出し、鈎狀連結を見事に有してゐる。又、乾燥すると諸所からヒビ割れて来る。本菌は潤葉樹に生じ、白腐を生ずるものである。



## 二、ウスキアナタケ 第一六圖版六一、第二〇圖版二五、二六、二七圖

*Portia Medulla-panis* (JACOQ.) PERS. [Medulla は髓 Panis はパンの意]

PERSOON, Neues Mag. Bot. 1: 109, 1794; SHOEI, Ann. Mo. Bot. Gard. 18: 398, 1931; SACCARDO, Syll. Fung. 6: 295, 1888.

異名 *Botulus medulla-panis* JACQUIN. Misc. Austr. p. 141, pl. 11, 1778; *Polyporus medulla-panis* (JACOQ.) FRITSCH.

Syst. Myc. 1: 380, 1821; *Polyporus santholoma* SCHW. Trans. Am. Phil. Soc. II, 4: 158, 1832; *Portia santholoma* (SCHW.)

COOKE, Grevillea, 14: 113, 1886, *Portia Pulchella* SCHW. 安田, 植維. 34: 321, 1920; 廣江, 應用菌學 1061, 1942.

子實體は背着に始終し、平坦に展開する。白色より淡材色(Light Ochraceous-Buff, Ochraceous-Buff, Warm Buff)を呈し、絹状の光澤を有する。厚つぽく感じられる。縁邊の不實帯は白色、淡材色(Light Buff)で綿毛状幅一—三mm、實質は殆ど存在しない。管孔は端正でやや斜に生ずる、長さ一・五—二mm、斜になつて三—五mmの長さになる。管孔は一mmに付き三—四箇、楕圓形。多角形。菌絲は無色、徑一・五—三・五(五)μ、隔膜なく、鉤状連結をせず、分枝して交錯する(やや結晶を被むる)。子實體より徑二μ位の菌絲が突出する。擔子基は一〇×五—七・五μ。胞子は無色、廣楕圓形五・五—七・五×三・七五—五μ。

採集地 備前加茂國有林 ナラ櫓木上 昭和一六年一月三日

本菌はナラ櫓木の裏面一面に廣く背着してゐた。侵害されてゐた櫓木數は多く、被害甚大であつた。本菌は東京科學博物館の *Portia Pulchella* (SCHW.) COOKE, の標本の外觀に最もよく似て居り、又、顯微鏡的にも近いものであつた。

# 二二、ワタグサレモドキ

第一六圖版六二圖、第二〇圖版二四圖

## *Poria subacida* (Pk.) Sacc.

Saccardo, Syll. Fung. 6: 325, 1883; Shoepf, Ann. Mo. Bot. Gard. 18: 399, 1931.

種名 *Polyporus subacida* Peck. Ann. Rpt. N. Y. State Mus. 38: 82, 1885.

子實體は背着に始終し、白色より黄褐色（Ochraceous-Tawny）を呈する。古びては表面がやや相膠着する。縁邊の不實帯は白色、淡材色（Cinnamon-Buff）を呈する。綿毛狀で幅一—二mm。實質は僅に存在する。管孔は相膠着し易く、長さ〇・五—一mm、管孔は一mmに付き三—四箇、多角形、不揃ひである。菌絲は黄褐色を帯び、徑三・五—五・五μ時に六・二五—七・五μ隔膜なく、鈎狀連絡をせず、分枝せない。小枝をやや有し、結晶を被り、相膠着し易く、相膠着して徑六・二五—七・五μに及ぶ。徑一—二μの菌絲が子實體より高く突出する。孢子無色橢圓形、四・五×二—二・五μ。

採集地 備前加茂國有林 シデ櫓木上 昭和一六年十一月三日

備中倉敷市大原農業研究所 柳地上切株 昭和一六年一〇月五日

本菌は加茂シデ櫓木上に僅に發生してゐた。徑三—五×三—一mm。Poria 屬としては被害の少い菌であると思ふ。恐らく、一年生の菌の様に思はれる。當研究所内で柳の古株の裏面を二五×五cm背着してゐたが、梅雨期に入つても殆ど新しく更生しなす。（昭和一七年六月二五日記）

本菌は東京科學博物館藏の *Poria subacida* (Pk.) Sacc. とその外觀は等しい。又、顯微鏡的にも近いものと思ふ。ワタグサレタケに類して居るのでワタグサレモドキの和名を使用する。

# 三、シワタケ

第一八圖版六六圖

*Merulius tremellosus* (Schnrad.) Frms. [Tremellosus (は震動するの意)]

Frms, Syst. Myc. 1: 327, 1821; Saocardo, Syll. Fung. 6: 411, 1868; Burri, Ann. Mo. Bot. Gard. 4: 313, 1917; 今圖, 日本園花植物圖鑑 p. 421, pl. 201, fig. 2, 5, 1939.

子實體は背着性であるが、通常上縁部反轉して半圓形又は不規則に波曲した棚狀の蓋を形成する、蓋の上面は白色の軟毛を密生して柔かい。實質は白色で柔軟、膠質をおびるが、乾燥すれば軟骨質となる。下面は膠質をおびて半透明狀をなし、淡紅色乃至肉色を呈し、低い鋸壁を具へ、不完全な網目を作る。子實體は下面一帯に形成され、囊狀體を有する。囊狀體は比較的少なく、棍棒狀で無色、通常結晶を被むる、大さ三〇—四〇×六—八 $\mu$ 、胞子は腸詰形、無色、平滑、大さ四—五×一・五 $\mu$ 。

採集地 備前御津郡加茂國有林 クヌギ櫓木上 昭和一六年一月三日

伯耆大山 潤葉樹地上枯枝上 昭和一六年九月五日

加茂國有林の濕氣の多い場所の古櫓木上に僅に發生してゐた。被害の程度は判らないが、大きくはないであらう。

## 二、シワウロコタケ

第一七圖版六三 第二一圖版三七圖

*Phlebia strigoso-zonata* (Sowh.) Bess. [Stringo は不毛、傾斜の意 zonata は輪狀の意]

今圖, 日本園花植物圖鑑 p. 419, pl. 200, Fig. 4, 1939; 安田, 植維. 27: 387, 1913; 廣江, 應用菌學 p. 1011, 1942.

子實體は背着し、上部反轉して、海綿體質の扇狀、又は不規則な蓋をつくる。上面は短密毛を被むり、褐色、紫褐

5) (Warm Sepia, Natal Brown) を呈する。下面、濕潤時は軟柔な肉質、黄橙褐色、褐色 (Tawny, Hay Brown, Mats Brown) を呈する。細かい不規則な皺襞を放射狀に有する。乾燥すればこの縮緬皺を消失し、凝固した古血色 (Claret Brown) の膠狀を呈する。胞子、無色、楕圓形、六・二五—七・五×三・七五—五・五。

採集地 備中倉敷市大原農業研究所 クヌギ櫓木上 昭和一六年七月二五日、昭和一七年五月二〇日  
梅雨期前後にクヌギ櫓木上に背着し、覆瓦狀に重生する。樹皮部を侵害する程度で、被害は大きくはない。

## 二五、ニクシワウロコタケ

第三圖版二八、第一七圖版六四、第二二圖版二八一—三一圖

*Phlebia aurantiaca* (Sow.) SOHROET. [Aurantiacus (は金色の菌)]

安田, 植維, 32: 75, 1918; 廣江, 應用菌學, p. 1011, 1942.

子實體は背着に始終する、表面の皺襞の状態等は *Phlebia merismoides* Fr. と殆ど同様である。 *Phlebia merismoides* Fr. が白色であるのに對して、本菌は黄橙褐色 (Salmon-Buff, Light Ochraceous-Salmon, Ochraceous-Salmon, Orange-Buff) である。實質は透明、半透明から白色、淡肉色 (Salmon-Buff) となる。又、Gloeocystidia は平均前者よりやや大きく、殊に幅が廣く。徑五・二—一〇〇×二〇—一六・二五 $\mu$ 、棍棒形、先端が張れる。擔子基、無色、棍棒狀二五—四〇×五—七・五 $\mu$ 。胞子、無色、五・八×二・五—四・二 $\mu$  (*P. merismoides* Fr. より大きく)。老朽すると四—六×二—二・五 $\mu$ と劣へる。

採集地 備中倉敷市大原農業研究所 クヌギ、ナラ櫓木上 昭和一五年六月五日、昭和一六年六月一〇日、昭

和 一七年五月一九日

本菌は外觀は *P. merismoides* Fr. によく似てゐるが、黄橙色を帯びて來るので異なる。*P. merismoides* 程は廣く背着しなう。又、侵害する槽木數も少い。前者よりやゝ遅れて發生し、被害は大きくない。

## 二六、イボシワウロコタケ

第三圖版二四—二七、第一八圖版六五、第二二圖版三十一—三六圖

*Phlebia merismoides* Fries [Merisma に類せるの意、Merisma はイボシワの類の古い名]

Fries, Syst. Myc. 1: 427, 1821; Saouardo, Syll. Fung. 6: 497, 1888.

異名 *Phlebia aurantiaca* (Sow.) Karst. Crypt. Fl. Scot. 1823—1828; *Phlebia rubiata* Fr., Syst. Myc. 1: 427, 1821; *Phlebia conorta* Fr., Berkely, Outl. Brit. Fung. p. 264, 1860.

子實體は背着に始終する。膠質、肉質、乾燥すれば軟骨質となる。最初多數の隆起する皺襞を生じ、鼻中隔狀を無數に呈し、不規則な窩をつくる。窩は 1mm に付き一箇の大きさである。縁邊に近づくに従つて皺襞は低く、少くなり、縁邊幅 1—2mm は殆ど平滑となる。乾燥すれば皺襞は不明瞭となり、又消滅する。最初乳白色、やがて色づき、淡黄褐色 (Light Buff, Olive Buff) 淡紅紫褐色 (Vineous-Buff, Avellaneous) 等を帯びるが、大體は淡い紫色を帯びて來る。古びると褐色味をます。(Clay Color)。實質は膠質、透明乃至淡黄褐色 (Olive-Buff) 古びて褐色 (Hair Brown) となる。菌絲は無色、2.5—3.75—7.5μ、僅かに結晶を被むり、非常に分枝する。隔膜多く、鈎狀連結も多い。*Gloeosporidia* が菌絲層中に夥しく存在し、屢々子實體中に生じ、稀に突出する、無色、2.5—1.00×9.25—15μ。擔子基、無色、2.5—3.0×3.75—5μ、四小梗を有す。胞子は長橢圓形、一方へやゝ偏する。5—7×2—

五—三μ、特に五×二・五μが多い。古びると、老朽し三・七五—五×一・五—二μとなる。

採集地 備中倉敷市大原農業研究所 クヌギ、ナラ、櫓木上 昭和一五年六月四日、昭和一六年五月二〇日、

昭和一七年四月二七日、昭和一七年六月二五日

本菌は毎年五月にクヌギ、ナラ櫓木上に生じ、梅雨期には發育旺盛である。櫓木全面に背着し、又夥しく蔓延する。最初出はじめた年は、その偉觀に驚かされその被害を心配したが、本菌は生長の烈しいにもかかわらず表面性であり、手で剥しても殆んど完全に除き得る菌である。又、八月に入ると毎年完全に姿を消失して了ふ。乾燥して古くなると膠質の薄膜と化し、昆蟲に喰はれ、又自から剥れて消滅す。被害は大きくない。本菌は新鮮な生成時とやゝ古びた乾燥時とは顯微鏡下では差が多い。新鮮時は *Gloeosporium* は判然と見えるが、古びて乾いた子實體のものでは、菌絲層が崩れて判明しない。新鮮時子實體の胞子は五・七×二・五—三μであるが、乾いた子實體では、胞子はやゝ老朽して三・七五—五×一・五—二μとなる。胞子の老朽は一つの特徴である。

本菌の和名に着きては、其性状と、學名の由來する *Merisma* とを考慮し、假りにイボシワウロコタケとした。

## 摘 要

一、本報文は椎茸栽培用の櫓木に發生する害菌に關する圖説の第二報でマヒタケ屬 (*Polyporus*) カハラタケ屬 (*Polystictus*) モンパタケ屬 (*Trametes*) カヒガラタケ屬 (*Lenzites*) ウスバタケ屬 (*Trpez*) アナタケ屬 (*Poria*) シワタケ屬 (*Merulius*) シワウロコタケ屬 (*Phlebia*) の菌を記載して居る。

一' Polyporus 属にはネンドタケ (*P. gilvus*) ダイダイタケ (*P. illicicola*) ヤケイロタケ (*P. adustus*) ヌルデタケ (*P. Pocula*) ツミスギタケ (*P. arcularius*) アラソメタケ (*P. caesus*) シラユキタケ (*P. chioneus*) イロヅキタケ (*P. prosopii*) の八種を掲げた。

三' Polystictus 属にはザイモクタケ (*P. ravidus*) カハラタケ (*P. versicolor*) ハカハラタケ (*P. purpureus*) アラゲカハラタケ (*P. hirsutus*) ヒイロタケ (*P. sanguineus*) の五種類を、*Trametes* 属ではモンバタケ (*T. tiliata*) 一種を、*Lenzites* 属にはカイガラタケ (*L. betulina*) チヤカイガラタケ (*L. tricolor*) の二種を、*Trpes* 属にはニクウスバタケ (*I. consors*) ウスバタケ (*I. lacteus*) 及びコガネウスバタケ (*I. tabacinoides*) の三種を掲げた。

四' 又 *Poria* 属にはワタダサレタケ (*P. vaporaria*) ウスキアナタケ (*P. Medulla-paris*) 及アナタケの一種 *P. subacida* の三種を、*Merulius* 属にはシワタケ (*M. tremellosus*) 一種を、*Phlebia* 属にはシワウロコタケ (*Ph. stringoso-zonata*) ニクシワウロコタケ (*Ph. aurantiaca*) 及びイボシワウロコタケ (*Ph. merismoides*) の三種を掲げた。

## 圖版の説明

第一圖版 第一——四圖 Polyporus gilvus ネンドタケ、第一——三圖蓋の表面、第四圖基部断面、上下合着した子實體面

第五圖 Polyporus Pocula ヌルデタケ

第六——七圖 Polystictus purpureus ハカハラタケ、第六圖蓋の表面、第七圖子實體面

第八——一〇圖 Polyporus illicicola ダイダイタケ、第八——九圖蓋の表面、第一〇圖子實體面

椎茸櫓木の害菌圖説(第二報)

第二圖版

第一一圖 *Polyporus profectus* イロヅキタケ  
第二二—一六圖 *Polyporus adustus* ヤケイロタケ、第二二—一四圖蓋の表面、第一五圖乾燥時の子實體面、第一六圖新鮮時の子實體面

第三圖版

第一七圖 *Polyporus chioneus* シラユキタケ、蓋の表面及子實體面  
第一八圖 *Polystictus versicolor* カハラタケ  
第一九圖 *Polystictus versicolor* var. *nigricans* クロカハラタケ  
第二〇—二一圖 *Polystictus sanguineus* ヒイロタケ、第二〇圖蓋の表面、第二一圖子實體面  
第二二—二三圖 *Lenzites bricolor* ナヤカイガラタケ、第二二圖蓋の表面、第二三圖子實體面  
第二四—二七圖 *Phlebia merismoides* イボシワウロコタケ、第二四—二五圖子實體自然大、第二六—二七圖子實體部を稍擴大した物（約三倍）

第四圖版

第二一八圖 *Phlebia aurantiaca* ニクシワウロコタケ  
第二一九圖 *Lenzites boletina* カヒガラタケ  
第二〇—二三圖 *Polyporus arcularius* アミスギタケ、第三〇圖子實體の断面、第三一圖子實體面、第三二—三三圖子實體、*Trametes villosa* モンパタケ、第三四圖モンパタケとクデラタケとの中間型でモンパタケに接近きもの  
第三四—三六圖 第三五圖モンパタケの本型、第三六圖小形のクデラタケ

第五圖版

第三七—三八圖 *Polystictus hirsutus* アラゲカハラタケ、第三七圖子實體面、第三八圖蓋の表面

第六圖版

第三九圖 *Polyporus givens* ネンドタケ  
第四〇圖 *Polystictus reticulosus* ザイモクタケ  
第四一圖 *Polyporus uliginosus* ダイダイタケ  
第四二圖 *Polyporus givens* ネンドタケ



第七圖版 第四三圖 *Polyporus adustus* ヤケイロタケ

第四四圖 *Polyporus Poeta* ムルデタケ

第八圖版 第四五圖 (左) *Polyporus castus* アラソメタケ (右) *Polyporus profusus* YASUDA イロツキタケ

第四六圖 *Polyporus chinensis* シラユキタケ(2/3に縮寫)

第九圖版 第四七圖 *Polydictus kiraius* アラゲカハラタケ

第四八圖 *Lenzites betulina* カイガラタケの初期

第一〇圖版 第四九圖 *Polydictus versicolor* カハラタケ (右) カハラタケ (左) シロカハラタケ

第五〇圖 (左) *Polydictus sanguineus* ヒイロタケ (右) *Polydictus purpureus* ハカハラタケ

第一圖版 第五一圖 *Irpex consors* ニクウスバタケ

第五二圖 *Lenzites betulina* カイガラタケ

第二圖版 第五三圖 *Irpex lacteus* ウスバタケ

第五四圖 *Lenzites tricolor* チャカイガラタケ

第三圖版 第五五—五六圖 *Thametes villosus* モンバタケ、第五五圖モンバタケ型(右)とクヂラタケ型(左)の相密接して生じた物、

第五六圖クヂラタケ型(2/3に縮寫)

第一四圖版 第五七—五八圖 *Thametes villosus* モンバタケ、第五七圖モンバタケ型(上)とクヂラタケ型の小形菌(下)、第五八圖モン

バタケ型の重生した物

第一五圖版 第五九—六〇圖 *Poreia vaginata* ワタグサレタケ、第五九圖乾燥して龜裂を生じた二年目の子實體、第六〇圖(左)一年生

の子實體、(右)多年生の子實體

第一六圖版 第六一圖 *Poria Michale-ganis* ウスキアナタケ

第六二圖 *Poria subacuta* ワタグサレモドキ

第一七圖版

第六三圖 *Phlebia strigo-annulata* シワウロコタケ

第六四圖 *Phlebia aurantiaca* ニクシワウロコタケ

第一八圖版

第六五圖 *Phlebia merismoides* イボシワウロコタケ

第六六圖 *Merulius tremellosus* シワタケ

第一九圖版

第一圖 *Polyporus arcularius* アミスギタケの胞子(七五〇倍)

第二圖 *Polyporus adustus* ヤケイロタケの胞子(七五〇倍)

第三圖 *Polyporus glaucus* ホンドタケの剛毛體(七五〇倍)

第四圖 *Polystichus roridus* ザイモクタケの胞子、菌絲、囊狀體(七五〇倍)

第五——六圖 *Polyporus ulicicola* ダイダイタケ、第五圖剛毛體(二五〇倍)、第六圖子實體の組織(一五〇倍)

第七圖 *Polyporus caesus* アラゾメタケ、胞子(七五〇倍)

第八圖 *Polyporus profusiss* イロヅキタケの胞子(七五〇倍)

第九——一二圖 *Polyporus chinensis* シラユキタケ、第九圖胞子(七五〇倍)、第一〇——一二圖同菌絲(七五〇倍)

第二〇圖版

第一一二圖 *Polystichus purpureus* ハカハラタケの胞子と囊狀體(七五〇倍)

第一一三圖 *Polystichus sanguineus* ヒイロタケの胞子(七五〇倍)

第一一四圖 *Lenzites betulina* カイガラタケの胞子(七五〇倍)

第一五——二〇圖 *Trametes viticola* モンバタケ、第一五——一六圖實質中の菌絲(七五〇倍)、第一七圖子實體中の菌絲(七五〇倍)

第二一一——二三圖 *Poria vaginata* ワタグサレタケ、第二二圖子實體及子實體から突出する菌絲(七五〇倍)、第二三圖胞子と擔子基(七五〇倍)

第二二四圖 *Poria subacuta* ワタグサレモドキ

第二二四圖 *Poria subacuta* ワタグサレモドキ

第二五—二七圖

*Poria Medulla-panis* ウスキアナタケ、第二五圖孢子、擔子基(七五〇倍)、第二六圖菌絲(七五〇倍)、第二七圖子實體から突出する菌絲(七五〇倍)

第二八—三一圖

*Phlebia aurantiaca* ニクシワウロコタケ、第二八圖 *Gloeocystidia* (七五〇倍)、第二九—三〇圖孢子、擔子基(七五〇倍)、第三一圖菌絲(七五〇倍)

第三二—三六圖

*Phlebia merismoides* イボシワウロコタケ、第三二—三四圖 *Gloeocystidia* (七五〇倍)、第三五圖孢子、擔子基(七五〇倍)、第三六圖菌絲(七五〇倍)

第三七圖

*Phlebia strigosozonata* シワウロコタケの孢子と擔子基(七五〇倍)

第三八圖

*Lycea lacteus* ウスバタケの囊狀體(七五〇倍)

第三九圖

*Lycea coners* ニクウスバタケの孢子(七五〇倍)

追記 本報告は主として三橋健の手になる。其所載種類の同定に當りては東京科學博物館今關六也氏に負ふ處が多い。記して謝意を表する。